



ドイツ連邦共和国

Unser Dorf soll schöner werden - Unser Dorf hat Zukunft

「わが村は美しく

— わが村には未来がある」

「わが村は美しく—北海道」運動を始めるにあたって参考とした、
ドイツ連邦共和国の「わが村は美しく」運動の紹介をします。

ドイツ連邦共和国

Unser Dorf soll schöner werden - Unser Dorf hat Zukunft

「わが村は美しくーわが村には未来がある」

コンクールの概要

1 コンクールの歴史

- ・1961年 マイナウ島の会議を主催したドイツ造園協会の働き掛けによって連邦の行事となった。（「マイナウの緑の憲章」は国土保全、国土計画、環境保全に大きな意味を持つ。）
- ・その後、1997年までは隔年に実施。2001年からは2年置きに実施。
- ・第1回は1970地区、それ以降は5,000地区を超えて参加。

2 コンクールの視点の変遷

- ・当初は、花や緑で美しく飾る、花いっぱい運動のようだった。
- ・次第に**経済的な発展**や**生態系保全**が重視。
- ・また、生活の質を維持する視点から**市民の参加**や**自助努力**を重視。

3 サブタイトル＝「わが村には未来がある」

- ・近年、村の持続的発展を重視するコンクールとしたため、「わが村には未来がある」をサブタイトルとした。
- ・**政府として**、村の生活の質が向上し、未来へ向けての**持続可能な農村**が**つくられることを、政策としても期待**。

Unser Dorf soll schöner werden - Unser Dorf hat Zukunft コンクールの目的

(コンクール募集要領から)

- **農村空間は多様性と独自性に特徴。そこは経済空間及び文化空間。伝統的に農林業によって利用され、居住と仕事と休養の重要な場所。さらにそこは、自然と環境の重要な調整機能を備えた成長する人文景観。**
- **農村空間における村の未来は、住民生活の質の維持と発展、及び住民の身近な生活空間における経済的、社会的、文化的、生態的ポテンシャルの利用に決定的に依存。**
- **村の持続的及び一層の発展のためには、住民自身が自治体と連携により達成可能。住民への情報提供と動機付けが不可欠。**
- **コンクールは、住民の自己責任を強化し、農村空間の発展に寄与することを期待。**

Unser Dorf soll schöner werden - Unser Dorf hat Zukunft コンクールにおける重要な視点

- 1 地域における村の展望を共同で発展させ、持続的に実施すること
- 2 経済的な潜在性を把握し、利用すること
- 3 村における社会的、文化的生活を強化すること
- 4 価値ある歴史的建造物を含む独特な村落の構造を保存し、発展させること
- 5 田園風景を保全し、居住・経済・保養の場としての村落を発展させる際、自然と環境の重要性を自覚し、さらに意識を高めること

審査基準

- | | |
|-----------------|------|
| ・ 構想及びその実現 | 10 P |
| ・ 経済的发展及びイニシアチブ | 15 P |
| ・ 社会的及び文化的生活 | 20 P |
| ・ 建築の形成及び発展 | 20 P |
| ・ 緑の形成及び発展 | 20 P |
| ・ 景観の中における村落 | 15 P |

Unser Dorf soll schöner werden - Unser Dorf hat Zukunft

コンクールの実施概要

1 実施方法

- ・ 3年に1回実施。人口3,000人未満の市町村に参加資格。
- ・ 大部分の州では、郡(地方自治体)、地域行政区(州内を区分した区域)、州の三つのレベルで実施。
- ・ 州の上位入賞地区が連邦コンクールに参加し、全地区が**金、銀、銅賞**を受賞。

2 主催等

- ・ 後援者＝連邦大統領
- ・ 主催＝連邦消費者保護食料農業省

事例紹介

2004年コンクールにおいて**金賞**を受賞した二つの村を紹介。

事例 1

ヘディングハウゼン(Heddinghausen)村(Nordrhein-Westfalen州Numbrecht市)

- ・ 人口＝290人 ・ 面積＝314ha

事例 2

ゲルスバッハ(Gersbach)村(Baden-Württemberg州Schopfheim市)

- ・ 人口＝700人 ・ 面積＝2,409ha

事例 1

Heddinghausen村



- ・鉄柵で囲んであった土地を住民が小公園にした
- ・石垣や石畳は地元で採取したデボン期の堆積岩

Heddinghausen



- ・農業を止めても、家廻りや納屋はきちんと管理
- ・草地内にポツンポツンと果樹を植えることが特徴

Heddinghausen

Heddinghausen



- ・白い壁に黒い枠の壁が基本
- ・伝統的な建築様式を保全

Heddinghausen



- ・コンサートホールを、楽団員45名の家からの寄付やボランティアだけで建てた
- ・村人達の共同活動の場となっており、 共同体意識を高める場ともなっている



Heddinghausen

- ・村人が共同で舗装道を砂利道に変え、歩行者専用道路とした

2005.10.11



Heddinghausen

・道路法面保護は地域に生息する植生とした

事例 2
Gersbach村



Gersbach

・村の入り口のウェルカム看板

Gersbach



- ・酪農教育のために、散策路に教育用看板を設置している(牛の学習小道)
- ・グリーンツーリズムに力を入れている



Gersbach

(地元のレストラン)

- ・金賞を受賞してから村を訪問する人が増えた
- ・地元産牛肉やチーズなどを増産している。



Gersbach

- ・村全体の色調が統一され、整然としている
- ・廃屋などは住民が改築して再利用する



- ・ドイツの人は、よく農村を訪れ、散歩などをする
- ・住民が創ったオブジェが楽しい

Gersbach

Unser Dorf soll schöner werden - Unser Dorf hat Zukunft

活動の評価と特色

1 評価(金賞)

ヘディングハウゼン(Heddinghausen)村;

- ・ 人口増加を抑え、村が村らしく位置するために活動してきた。
- ・ 市民バスの運営、青少年参加の楽団などの共同活動が活発である。
- ・ 村の生活の質を高める活動が高評価。

ゲルスバッハ(Gersbach)村;

- ・ 農業振興のため、伝統牛肉をレストランなどに産直でなどを売り込む。
- ・ 農家と観光業者が一緒になって「牛の学習小道」などを整備し、グリーンツーリズムを進めている。
- ・ 地域経済力の強化が高評価。

2 運動の取り組み状況

- ・ リーダーが中心となり村人を纏め、地域の課題を探し、行政とも連携した。
- ・ 土地利用規制や村の条例などの整備や、住民への啓蒙活動をしている。
- ・ 廃屋や畜舎などを共同で改築し、再利用を図っている。

3 今後の課題

- ・ 共同活動が、村人の生活の質を高めるという認識を持つことが必要。
- ・ 定期的な活動を行うことにより共同の活動を続けるという意識を持たせるとともに、リーダーの育成。